

76 丹生(にう)川上神社のウマ

—絵馬でなく本物の馬が献上されました—

弘行君 あけましておめでとう。

バスケットボール優勝祈願の絵馬を奉納してきたんですね。おじさんからは、午年に書こうと決めていた丹生川上神社の話です。

きっかけは、奈良新聞の「東吉野村小(おむら)の丹生川上神社中社の例祭が行われ、水の神に馬を献上する儀式があった。(中略)文献史上約560年ぶりに復活。丹生川上神社への馬の献上は、古代から国家の祭礼として行われた記録がある」という報道です。



丹生川上神社は、1300年以上も前に創建された神社で、雨乞いには黒馬を、晴れてほしいときには白馬を献上する行事が続いてきました。黒い雲は雨を、白い雲は青空を思い起こさせるからでしょうか。

でも、雨乞いや晴れ乞いの度に馬を奉納するのは大変ですから、「雨が降ってほしい」というときは黒馬の絵を、「もう雨が止んでほしい」というときには白馬の絵を奉納するようになったのだそうです。これが絵馬の始まりです。

丹生川上神社は、こうした奉納が行われなくなってから忘れ去られていたのですが、明治の頃の研究で場所が分かり、今は上社、中社、下社として3つの丹生川上神社がお祭りされています。

写真は関西電力株式会社が中社に奉納した絵馬で、黒馬と白馬の両方が描かれています。「たくさん降ってほしい、しかし、被害が出るほどには降ってほしくない」という気持ちからでしょうね。



おじさんは、去年の夏、大滝ダムの建設にもなって移し替えられた上社を訪ね、秋には東吉野村の中社を参拝、ここで「あの黒馬と白馬は下社にいます」と聞いて、下社にも行きました。広い境内で遊んでいた白馬にジャンパーの袖を引っ張られました。「もっとこっちへおいでよ」と言われているような気がしました。

馬の絵 1 枚でお天気に変化する訳ではありませんが、神様や仏様、そして、自然を敬い大切にすることは忘れてはならないと思います。

では、絵馬のご利益とバスケットボール部の優勝、君の活躍を祈っています。



(平成 26 年 1 月・中 2 の弘行君宛て)

スポットの案内

上社は川上村大字迫 167，近鉄吉野線大和上市駅から奈良交通バス「湯盛温泉杉の湯」下車。中社は東吉野村小 968，近鉄大阪線榛原駅から四郷大又行バス約 1 時間で「神社前」，下社は下市町長谷 1-1，近鉄吉野線下市口から奈良交通バスで「長谷」バス停下車，すぐです。

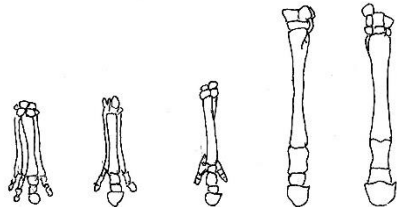
理科のワンポイント「ウマの進化」

「先生 チンパンジーもいつかヒトに進化しますか？」という質問を受けたことがあります。しかし、ヒトはチンパンジーから進化してきたわけではありません。ヒトやチンパンジーはその共通の祖先から進化し続けてきた結果が現在の姿なのです。

ヒトはたしかに進化の頂点にあるように思います。でも、それはヒトの独り善がりではないでしょうか。チンパンジーは、「ヒトはもっと進化しなければいけない。私たちはなかまを殺すような武器を作らないものね。ヒトっていうやつはそんなことも分からないんだ。まだ進化途上の生き物なんだよ。もっと進化したらチンパンジーに近づいてくるだろうね」と考えているかも知れません。でも、それも間違いです。それぞれに進化してきた姿が現在の姿なのです。

多くの教科書で進化の説明に使われてきたのがウマの化石です。ある学者が、約5千万年前の地層から発見した前脚の化石が、いまのウマと共通するものだったのです。そして、この系統に属するものを整理して並べた図が、その頃の授業メモから出てきました。

左端が最も古い時代のもので、これにはヒラコテリウムという学名が与えられ、和名では「アケボノウマ」と呼ばれています。これは中型の犬ほどの体で、前肢に第1指がありません。その次の時代のものは第5指もなく現世のものでは第3指だけになっています。このような変化や歯の変化から、森を出



て草原で暮らすようになったウマの先祖が、肉食動物から逃げるために速く走る方向に進化しつづけ、その結果、第3指が発達して今のように速く走れるようになってきたと考えられているのです。

進化は長い時間をかけて進んでいく変化です。でも、必要に応じて体のつくりを変えてきた生物の営みを考えると、いろいろなことを機械まかせにしている生活が、私たちの体にどのようなことを引き起こすのか、ちょっと心配な気がします。